

志

の

ふ

す

り

七
の
子
長
か



福二仲のち 峯と 松原と

うき世のあはれ 我の肩に
かたしなみこ 玉の粒を



まのり

まのり ねと 龍良

ねのま

あまのり 谷山

まのり

あまのり 龍助

まのり

あまのり 龍良

まのり

あまのり 龍良

まのり

あまのり 龍良

布士物果林系

ここの山は山

五の山

この山は山

山は山

山は山

山は山

山は山

山は山

山は山

山は山

山は山

少 ちかみ

はあさつら 七蕉

ひのき

なまこ 山蘭

いぢり

いぢり 略山

いぢり

いぢり 七良

いぢり

いぢり 七蕉

いぢり

いぢり 七蕉

いぬのうらみ
あつちむらからか
心

城乃のむらさ

のぬこころ
塔山

おのころ

しんじゆ
妻
心

り
ゆかり

うらみ
月夜
鼠

い
路山

う
路山

わ
心

心
心

ふしやあまの

あまのうらみの

観

あまのうらみの

あまのうらみの

ま

あまのうらみの

あまのうらみの

嵐

あまのうらみの

あまのうらみの

あまのうらみの

山

あまのうらみの

あまのうらみの

魚

あまのうらみの

たあは俺の
何れも人の
さへも
人よ
朝

一丁の
さめ
乃
氣

つ
良

嗚呼
付多
元氣
小龍
元年

二二六八

婦
乃
池
也
也
也
也

と
ま
ま
の
ま

と
ま
ま

乙抄新宅

かきつりての

むら

そと

今家を買

かきつりて

そと

芭蕉翁年

延夕晋子

魚也

下而持兒

其評、授子允

門中、
繼

相識

瞬也亭
自土

行年

之藏
山集



一幅六行
中芭蕉翁

翁ぬまの所合
あえ程二年

多利のく
世年濃国

の他
連
及
藩

至
太田
家
平
了
了
と

故有て三子裁りて其
一分の中をともも
この国子やまのり
まぶらえ得るや
あふも祖

翁の真蹟

神をうらぐ
をうらぐ
のそのおはる

安永三年甲午春

簞雨若し懐甚証



象の師匠自身は
しるべき人々
其の事々々々
一ツもそのあり
ては

下男

○
岸の如く釣座も
うらな

うらな

うらな

耕

恋の及ばぬ
あはれ

成田

かたもはあはれ
あはれ

あはれはあはれ
あはれ

三年多
の

子多女
樂

子

子

子

あまのこ
あまのこ
あまのこ

あまのこ
あまのこ
あまのこ

追悼

沛乃禮小註

乃子(子)以系用(用)之(之)也(也)

支草机

支草机



毎朝水知仕中 海字に記大
大板に書きし也し 付合し女殿
向ては前よりおるに平し 不新
と申すも 常し仕
向ては前よりおるに平し 不新
向ては前よりおるに平し 不新

と申すも 常し仕
向ては前よりおるに平し 不新
向ては前よりおるに平し 不新

之し

次

白岸村
之し

おんせの
かた
かた
かた
かた

おんせ

かた

かた

かた

かた

かた

かた

右中勢ノ三ノハ若好ノ若ニテモ
秘蔵ニ玉ニシ色紙七葉ノ内ニ
侍末ノ由ハ爰ニ畧ス

神學
學

神學



